

株式会社バイ・テクノロジー

2022年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

2021年8月10日

将来見通し等について

▶ 将来見通し

本資料に記載されている当社の計画、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、顧客のある国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

▶ 為替リスク

当社の主力製品である、フラットパネルディスプレイ製造装置の輸出販売は、原則円建てで行われております。一部に外貨建て決済もありますが必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしております。従って、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微であります。

▶ 数字の処理

記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳と一致しない場合があります。

▶ 会計方針の変更について(詳細は2022年3月期第1四半期決算短信Page7をご確認下さい)

① 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

② 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を2022年3月期第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

▶ 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、量的基準より判断して、当社の報告セグメントは「FPD事業」のみとなるため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、2022年3月期第1四半期連結会計期間において、量的な重要性が増したため、報告セグメントを従来の単一セグメントから、「FPD事業」、「半導体事業」の2区分に変更し、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」としてセグメント情報を開示しております。なお、市場、顧客の種類及びサービスの内容が概ね類似している事業セグメントを集約しております。

Q1ハイライト

▶ 連結業績は前年同期比で増収増益、受注も好調

- ▶ 全社受注高は前年同期比で49.7%増加、前四半期比で68.9%増加

▶ 上期業績予想を公表

- ▶ 最新の客先情報を勘案した通期販売計画にて、下期への高収益案件の集中が確認され追加公表

▶ 半導体事業好調

- ▶ 前年同期比で売上は268%増加、受注は227%増加
- ▶ 第2の事業の柱として成長加速、報告セグメントに「半導体事業」を追加

▶ μ LEDディスプレイ用装置を受注

- ▶ レーザーリフトオフ装置、 μ LED移載装置
- ▶ タクトや搭載位置精度等で強みを発揮

▶ イノベーションセンター(仮称)の設立を決定

- ▶ 海外からの顧客アクセスに優れる横須賀リサーチパークに設立。
- ▶ FPD・半導体関連の研究設備を同センターに集約し、運用効率を向上。他、基幹部品の一貫生産、農業生産技術の研究開発を実施

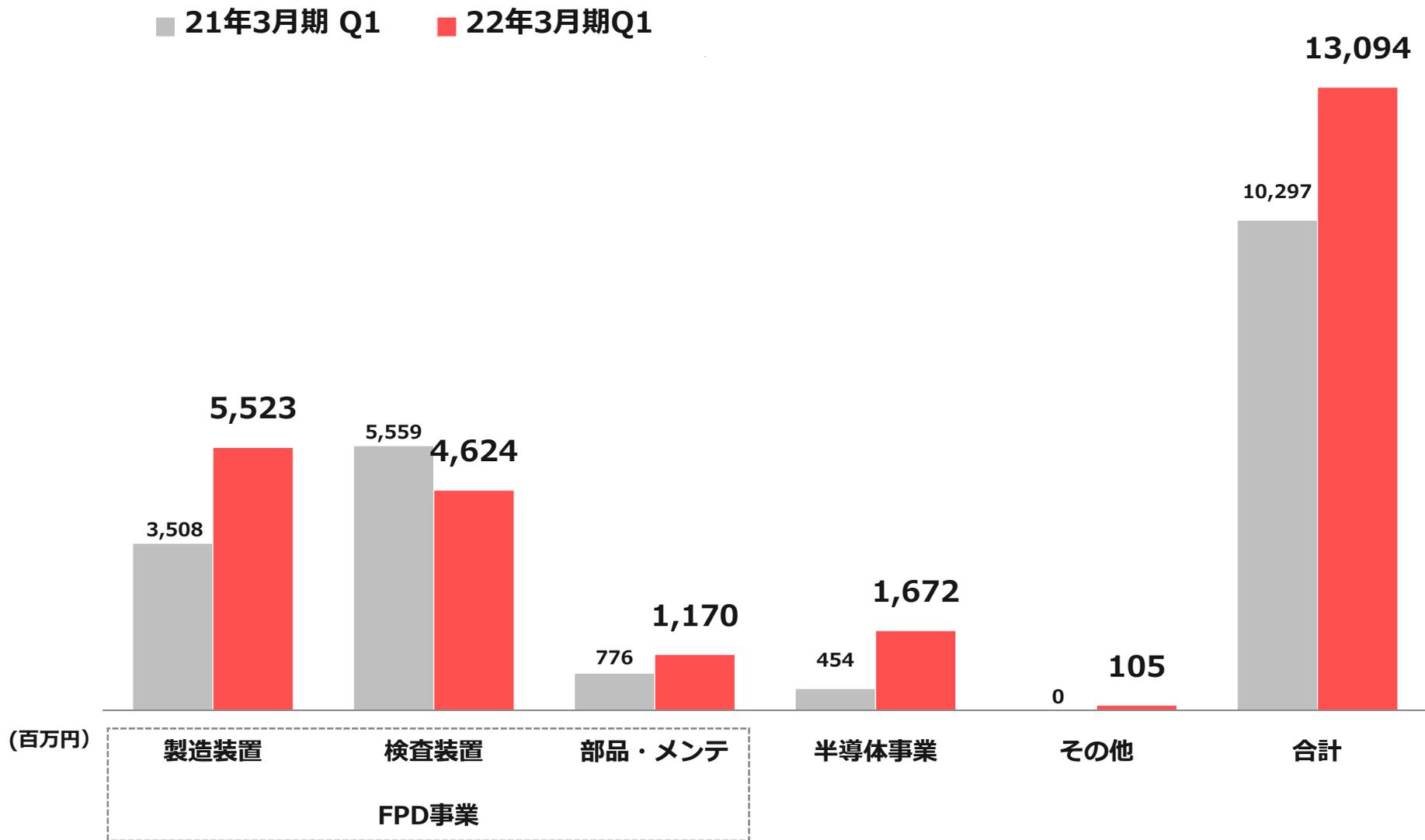
連結業績

(百万円)	2021年3月期Q1		2022年3月期Q1		
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
売上高	10,297	100.0%	13,094	100.0%	+27.2%
売上総利益	3,173	30.8%	3,687	28.2%	+16.2%
営業利益	1,169	11.4%	1,312	10.0%	+12.2%
経常利益	1,119	10.9%	1,238	9.5%	+10.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	633	6.1%	1,145	8.7%	+80.9%

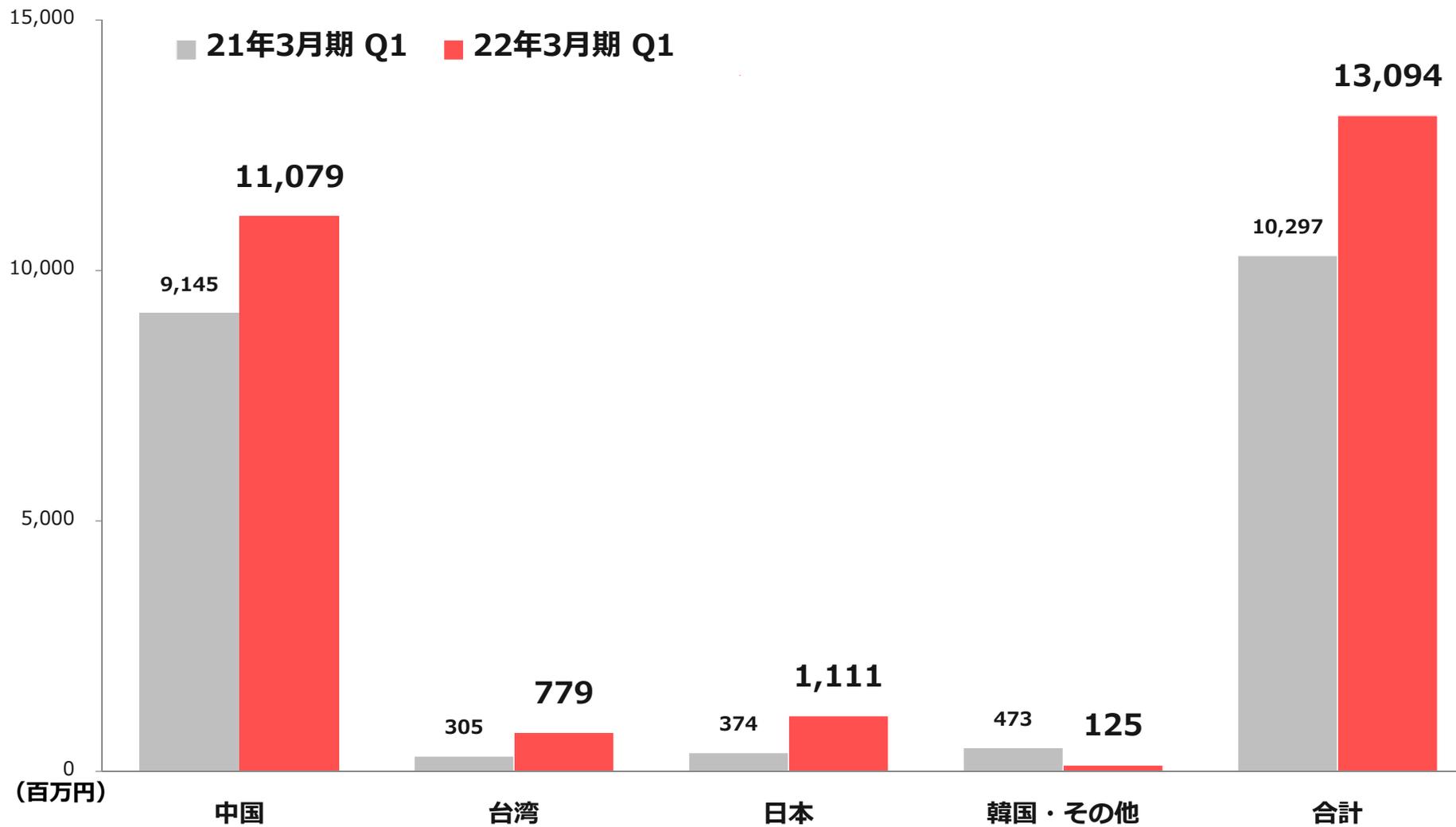
連結業績(事業セグメント)

売上高及び利益又は損失の情報		21年3月期Q1	2022年3月期Q1		
		金額	金額	前年比	セグメントについて補足
FPD	売上高	9,842	11,316	15.0%	<ul style="list-style-type: none"> VテクおよびOHTのFPD装置事業および、蒸着マスク事業(VET)、中小型OLED再生事業(VSC社)等で構成 大型FPDの設備投資が継続され売上増も、収益性の低い案件の売上計上があり利益率低下 VETおよびVSCは下期からの本格化を見込む
	利益(損失▲)	1,265	1,231	-2.7%	
	利益率	12.9%	10.9%	-2.0%	
半導体	売上高	454	1,672	268.3%	<ul style="list-style-type: none"> NSS、Lithotec Japan、OHT及びVテクの半導体およびPCB事業等で構成 半導体関連の売上が増化し(前年比268%増)、事業の重要性が増したため、報告セグメント追加 セグメント利益率は、Siウェーハ関連装置が売上利益で健闘も、一部事業の採算が悪くやや低迷
	利益(損失▲)	▲53	108	—	
	利益率	—	6.5%	+6.5%	
その他	売上高	0	105	—	<ul style="list-style-type: none"> 有機EL照明事業(Lumiotec)等で構成 下期からの本格化を見込む
	利益(損失▲)	▲42	▲27	—	
	利益率	—	—	—	
小計	売上高	10,297	13,094	27.2%	—
	利益(損失▲)	1,169	1,312	12.2%	
	利益率	11.4%	10.0%	-1.4%	

連結売上高(事業セグメント別詳細)



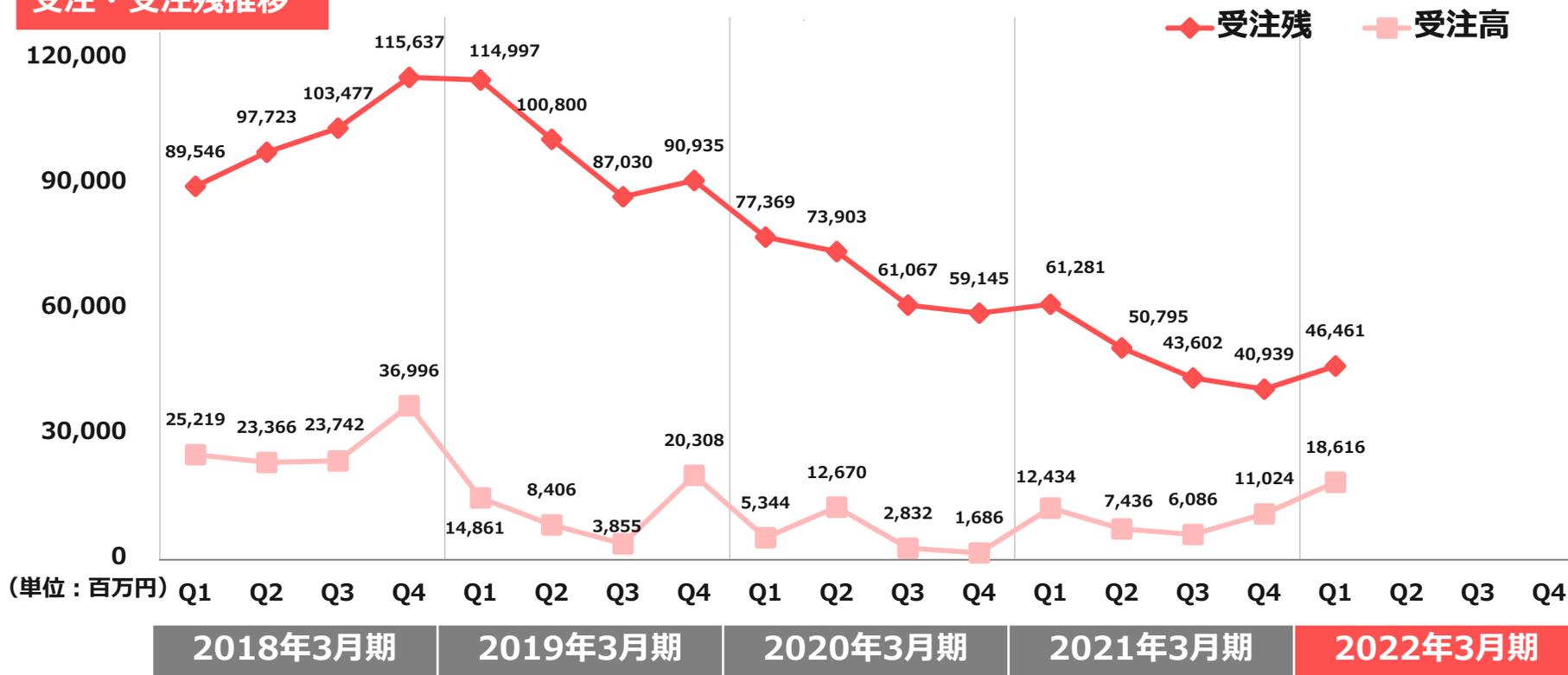
連結売上高(地域別)



連結受注残・四半期連結受注高の推移

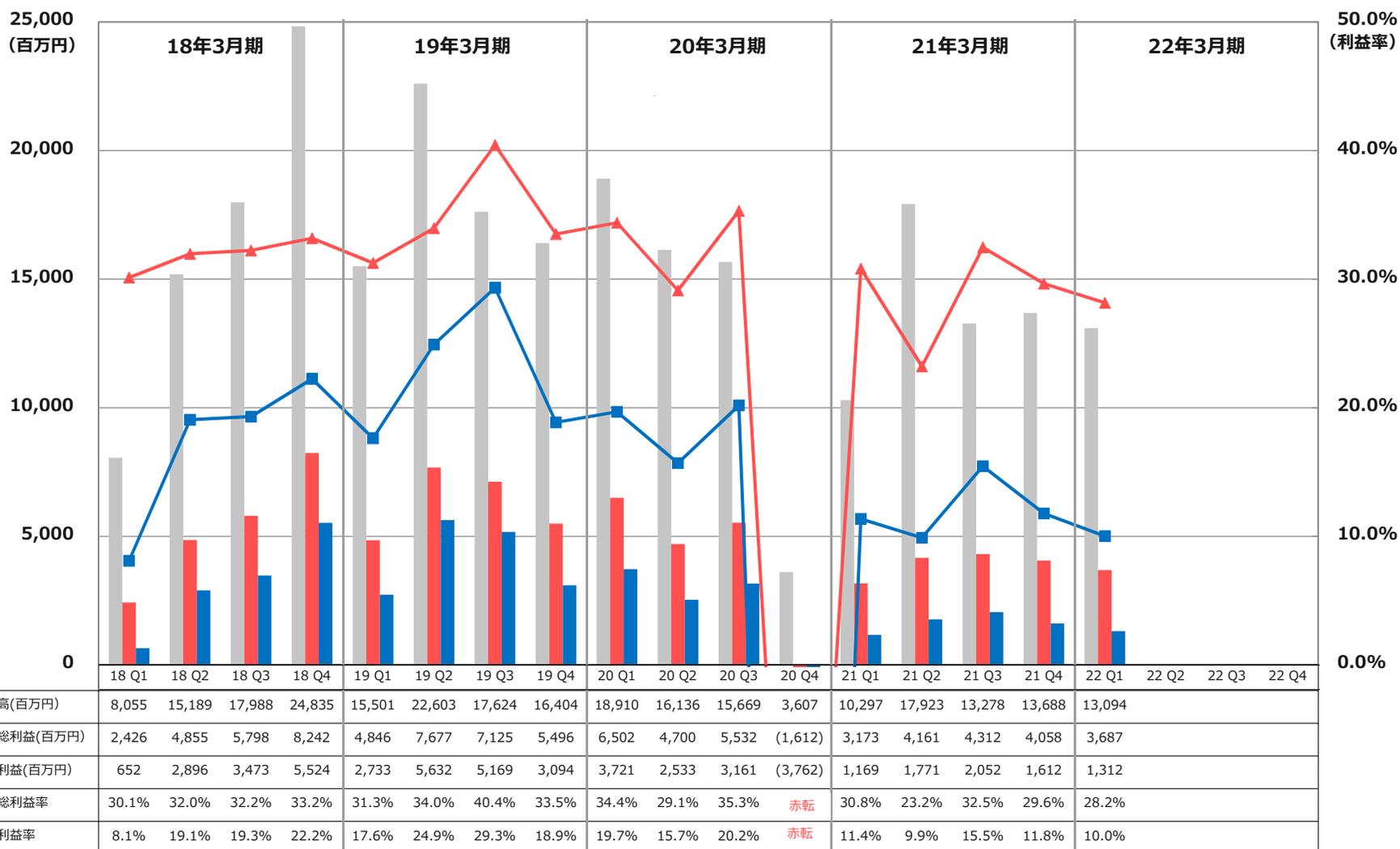
- ▶ 受注高は、FPD・半導体共に前期比で大幅に増加(YoY+49.7%/QoQ+68.9%)
 - FPD工場新設・増強および次世代FPD関連の商談が概ね想定通りに成約し受注増加

受注・受注残推移

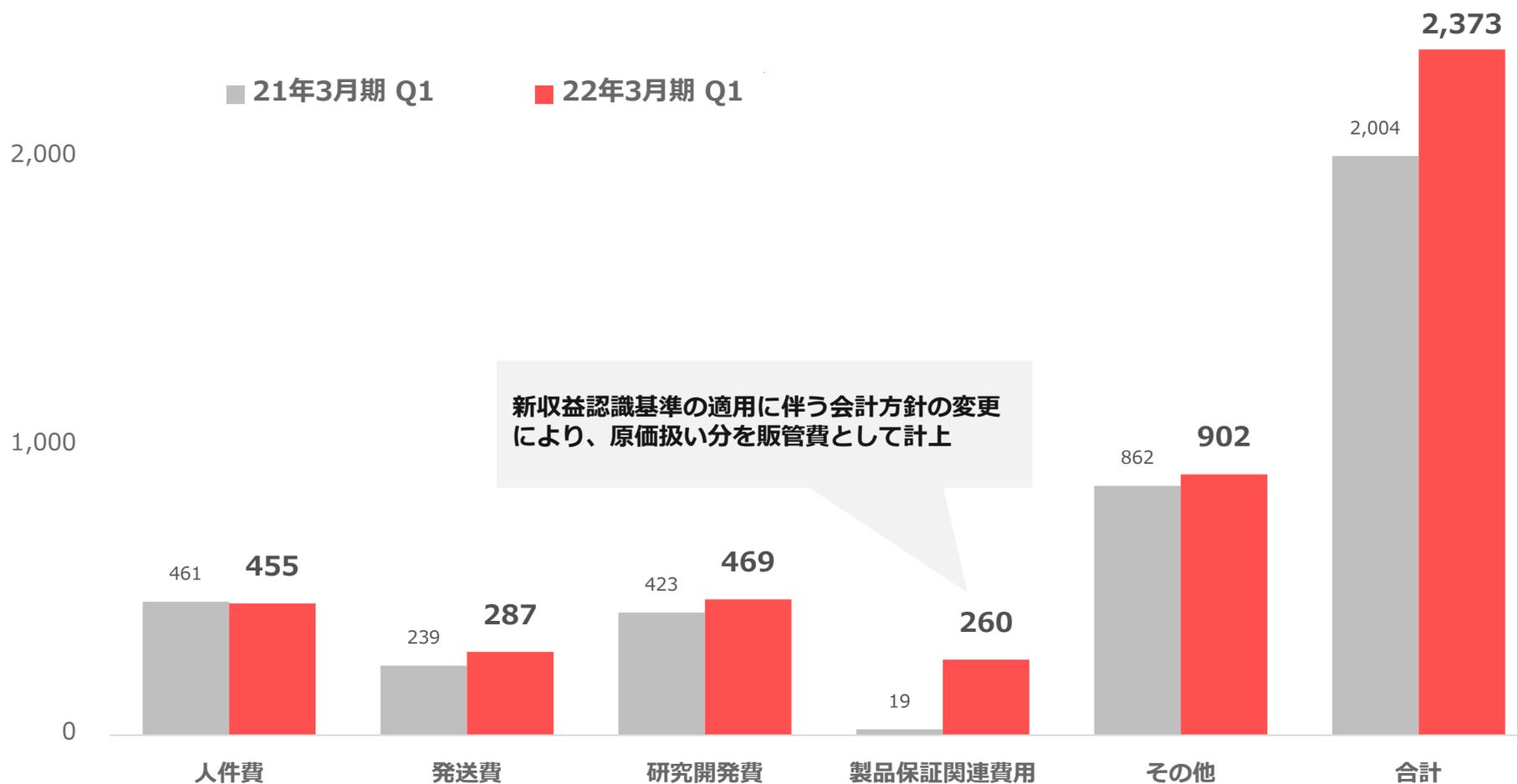


セグメント別受注/受注残 (単位:百万円)	受注高		受注残高	
	2021年3月期Q1	2022年3月期Q1	2021年3月期Q1	2022年3月期Q1
FPD	12,146	17,568	59,359	41,764
半導体	288	942	1,921	4,697

四半期毎連結売上高・利益の推移

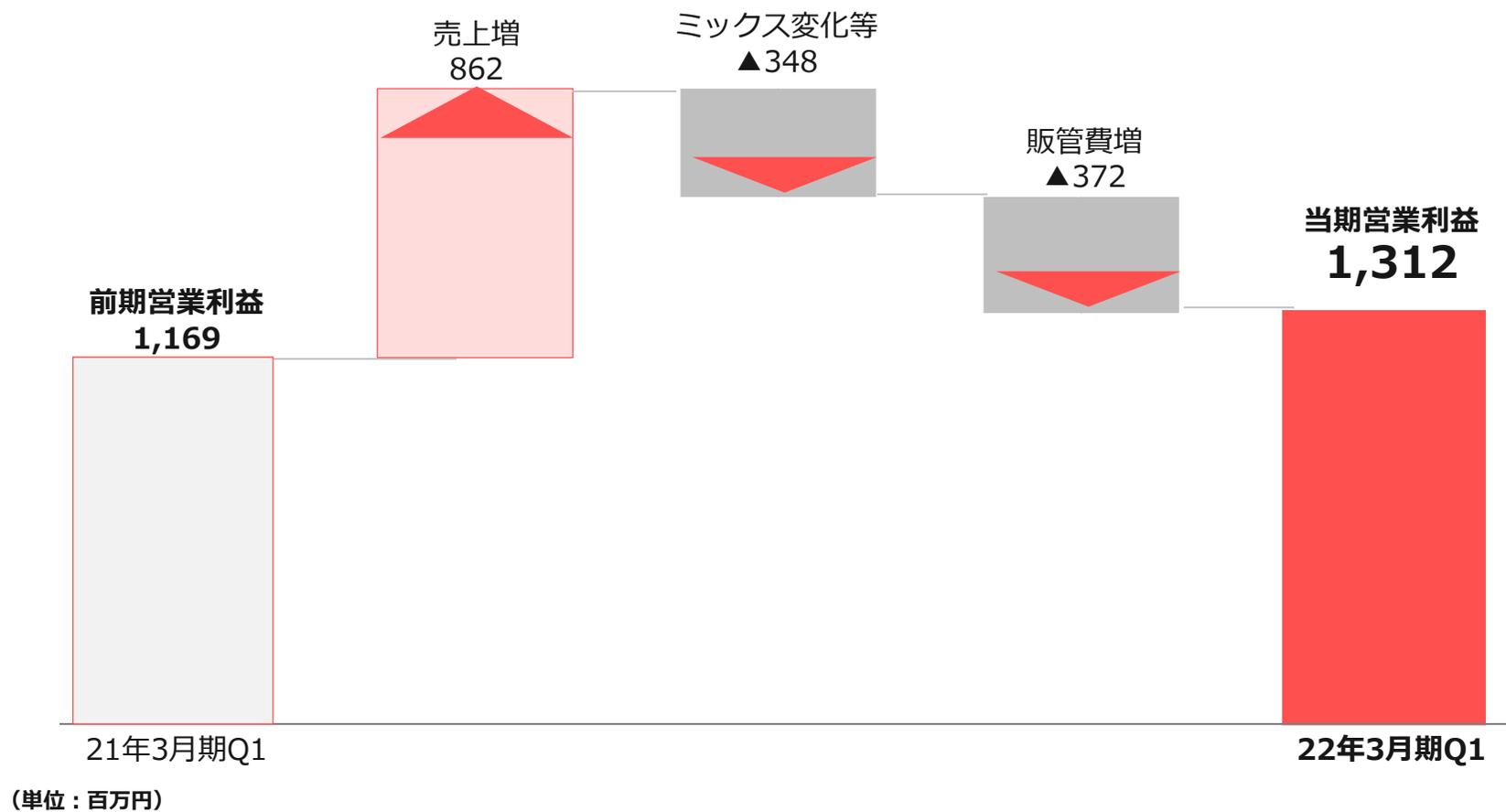


販売費及び一般管理費



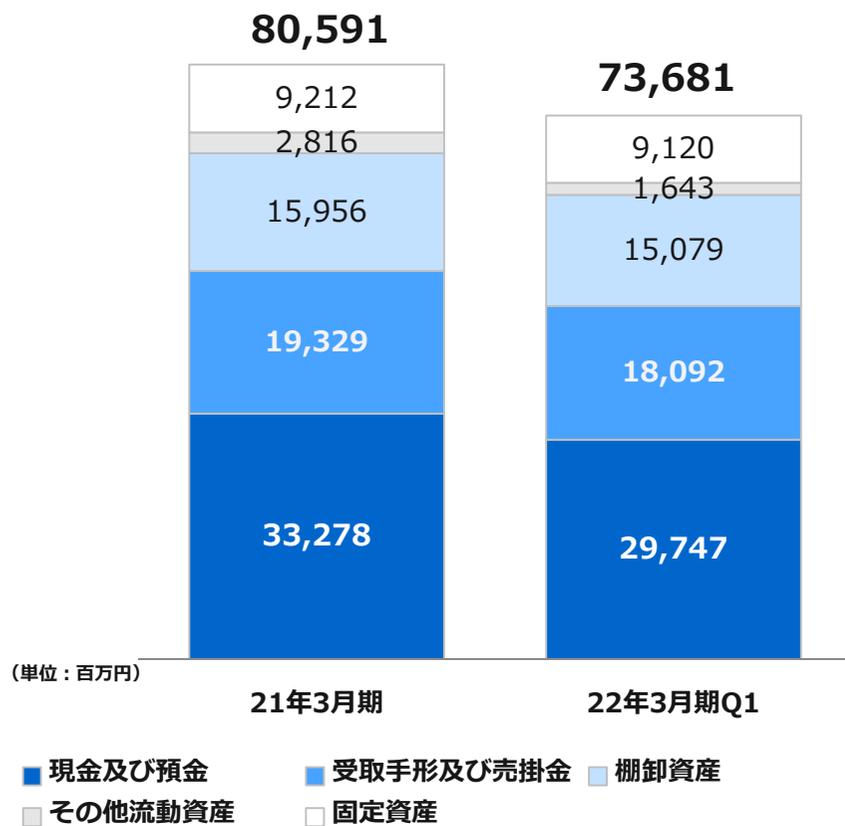
(単位：百万円)

連結営業利益の差異分析

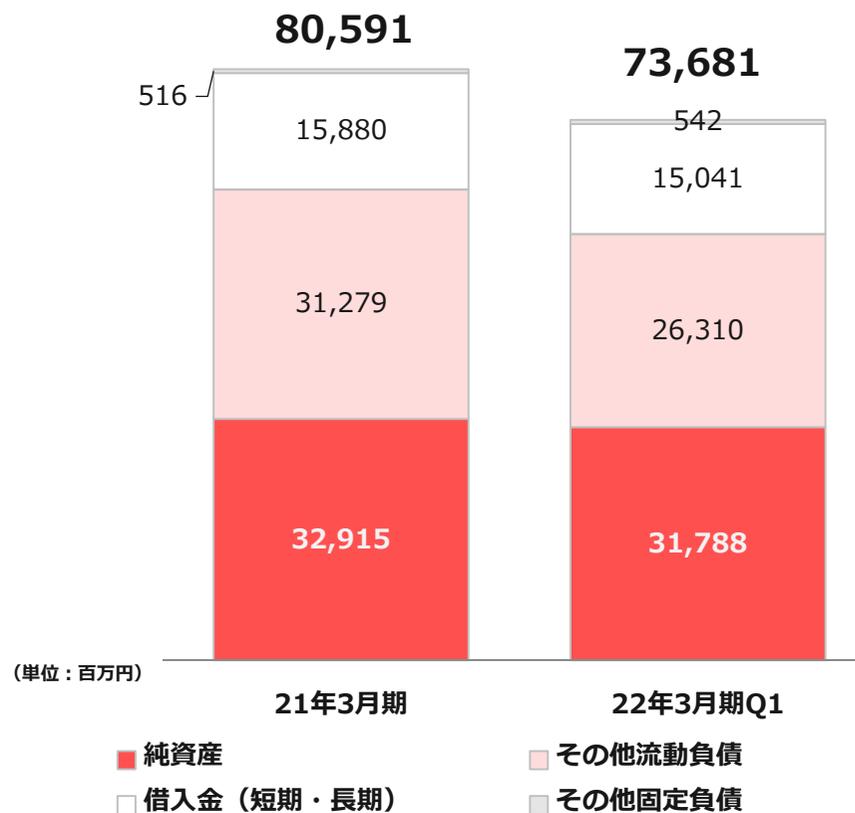


連結貸借対照表の推移

総資産



負債・純資産



| 業績予想

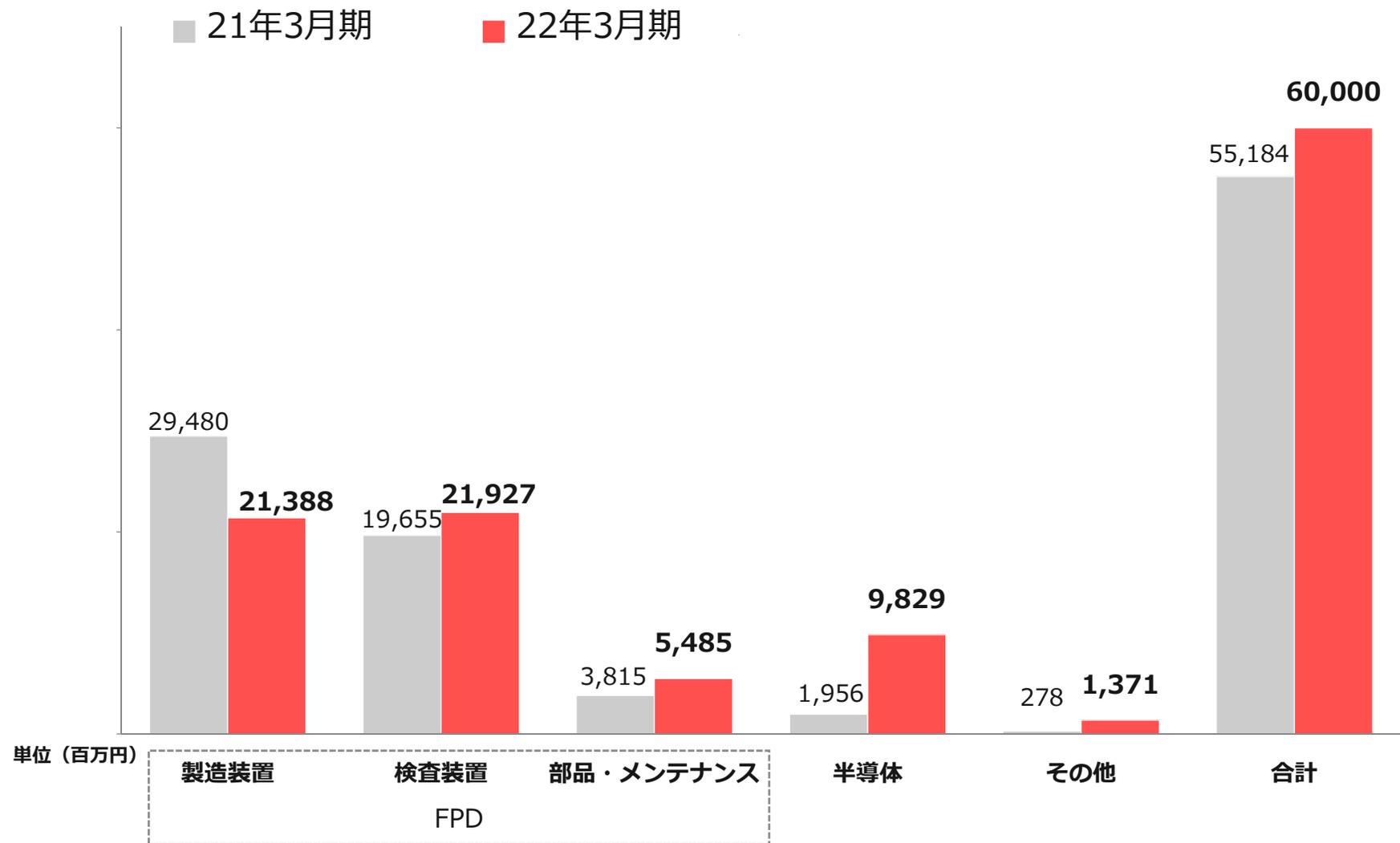
2022年3月期の業績および配当予想

- ▶ 通期業績予想および配当予想は、5月12日発表と変更無
- ▶ 利益の下期偏重が予想される為、上期業績予想を追加開示
 - ▶ 最新の客先情報に基づき販売計画を精査したところ、利益率の高い案件が例年より下期へ集中すると見込まれ、下期(6カ月)の営業利益(率)は51億円(15.6%)と予想されます。この為、5月に発表した通期業績予想に上期業績予想を追加で公表しております。

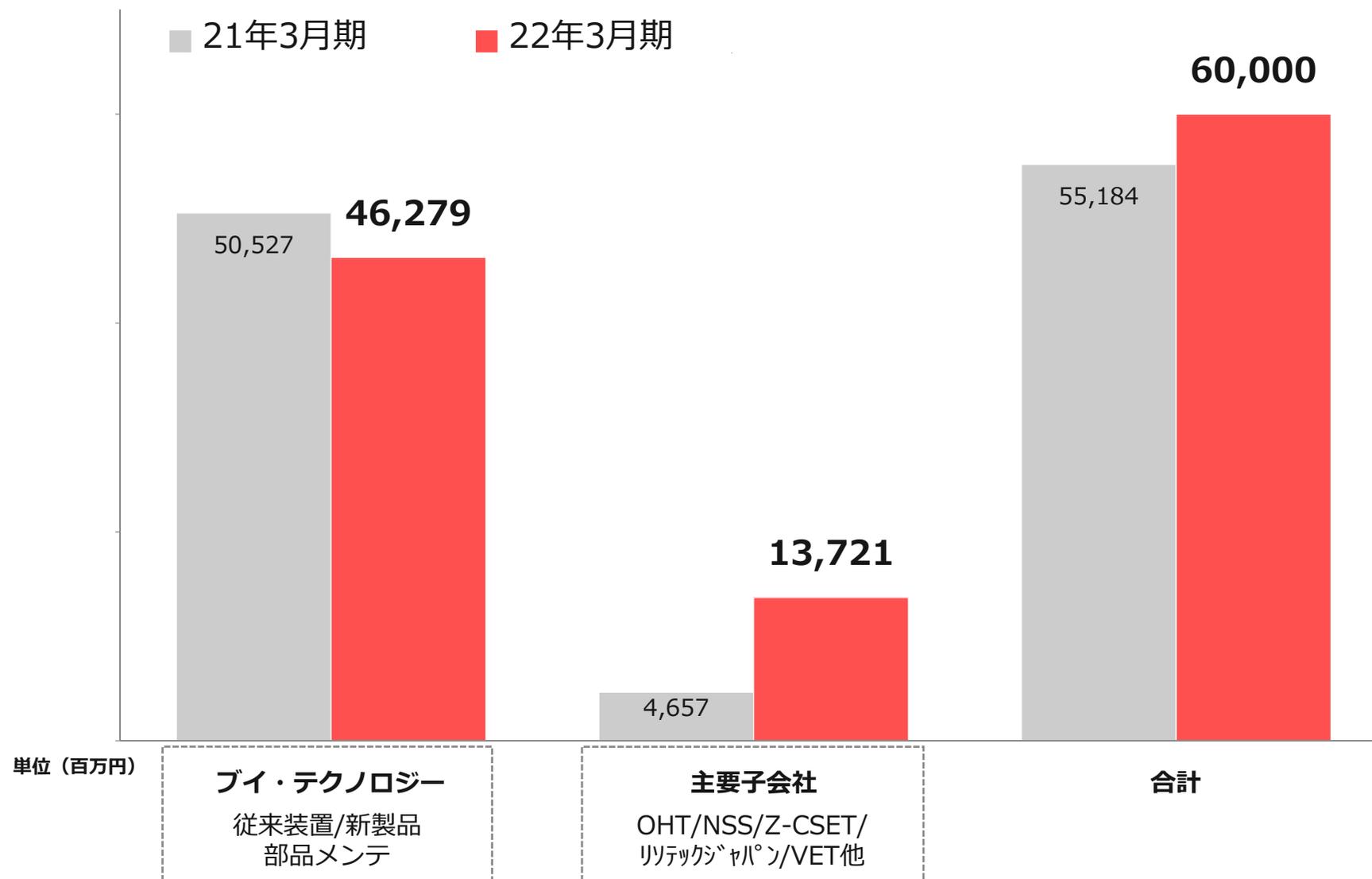
22年3月期業績予想 と前期実績	上期		通期		21年3月期(実績)
	金額(百万円)	構成比 (下段:前期比増減率)	金額(百万円)	構成比 (下段:前期比増減率)	金額(百万円)
売上高	27,300	100.0% (▲3.3%)	60,000	100.0% (8.7%)	55,186
営業利益	2,100	7.7% (▲28.6%)	7,200	12.0% (9.0%)	6,604
経常利益	2,050	7.5% (▲28.8%)	7,050	11.8% (3.1%)	6,836
親会社株主に 帰属する純利益	1,650	6.0% (11.7%)	4,300	7.2% (22.4%)	3,513
EPS(円)	-		444.70		363.41

配当予想と前期実績	22年3月期(上期)	22年3月期(下期)	21年3月期(年間)
配当金(円)	60円(予想)	60円(予想)	120円(実績)

2022年3月期 通期売上予想内訳(事業セグメント別)



2022年3月期 通期売上予想内訳(会社別)





V-TECHNOLOGY